

REPORT

卒後を見据えた実習



京都橘大学 健康科学部 臨床検査学科

■ 概要

3年生の生理機能検査学実習は、生理学的検査手技（超音波 / 呼吸機能 / 心電図 / 脳波ほか）を7～8名のグループが巡回します。2名の指導教員と各検査手技に4年生のLA (Learning Assistant) を配置し、屋根瓦方式^{※1}の教育体制をとっていました。

検査手技の中でも超音波検査は個人の力量が問われる手技の一つです。今回は“腹部”超音波検査手技に焦点をあて、学生に興味や満足感を持ってもらえるよう、従来から行っている屋根瓦方式の教育に映像教材を加えた実習を試みました。

実習当日は、超音波装置（2台）の前方にあるスクリーンに映像を投影し、流れに沿って手技を進めました。さらにテストツール^{※2}を活用し、腕試しの時間をつくりました。

※1 教えられ手技を修得した学生が、次の学生を教えていくという教育体制の方式。その場にいる誰もが教え学ぶという考え方。

※2 YouTube 映像教材（基本編 13 画像）用テストツール

■ 指導者の想い



所司 睦文

京都橘大学 健康科学部
臨床検査学科 学科長 教授

学生には事前に映像教材を共有しています。学生は映像を事前に視聴することで、臓器位置の把握や探触子走査のイメージを持って実習に挑みます。そのため、実習中に我々教員は学生の不得意な部分に集中した指導が可能となりました。

自習の最後に映像教材で学んだ臓器を時間内に描出するというテストをおこないました。各グループでは互いに励まし合い、各人に「習得できた」という成功体験を与えることが、手技に対する興味や満足につながると確信しています。

さらに映像は、屋根瓦方式の教育に4年生のLAがサポート役として貢献し、“卒業後の学び”にもつながるよう工夫しています。

臨床検査技師の業務拡大により人材不足という課題があります。映像教材は学生のみならず、臨床経験の浅い検査技師に対する指導や自己学習にも大いに役立つと感じています。



テストツール活用中

※3 実習前後で映像教材を視聴

学生の声

- 後輩を指導するうえで、3画面構成の映像は臓器の位置やプローブ走査のポイントを伝える補助となり、助かりました！（4年生）
- ファントムだけでなく、ヒト編があるため、卒業後も自己学習として活用したいです。（4年生）
- スクリーンに投影された動画と授業で使用した模型がリンクしていたため、理解が深まりました。授業の復習はもちろん、国試対策としても活用したいです。（3年生）



映像教材



映像の活用例として実習 / 講習の手引き（ダイジェスト動画）が公開されました。



映像教材

(YouTube 無料公開中)